

## 新聞記事を比較して読もう

指定校 1 年次 松川町立松川中学校 金澤 由佳・朝倉 ゆかり・関島 真知子

### (1) 本年度のNIE活動の概要

NIE 研究指定校 1 年目にあたり本校の国語科では、文章を吟味・検討し、批判的に読む力を養うことを目指して、2つの新聞記事を読み比べる活動に取り組んできた。

まず、全校生徒・職員が行き交う図書館前の廊下に新聞コーナーを設置し、生徒が新聞を自由に手に取れる環境を整備した。また、注目記事の掲示や生徒の学習の成果物（新聞のレポートなど）の掲示も行った。加えて、3学年においては、新聞の特徴を知るための出前授業を2時間行い、「みんなの時間」を活用して、「新聞から文字数の多い熟語を探そう！」などの新聞に親しむための活動や、2つの新聞記事を読み比べる活動等を行った。その他にも、日本新聞博物館から全国47都道府県の地方紙等を取り寄せ、できるだけ多く、広い情報に触れられるような工夫もした。

成果と課題は、学習を経て情報に接する際に留意したいこととして、生徒から「安易に情報を鵜呑みにしない」や「一つの記事だけを見て判断するのではなく、いろいろな記事を見て判断したい」、「事実と意見をしっかり読み分け、主観的に述べられていることを安易に信用しない」などの声が上がった。NIE の学習を通して、文章を批判的に読むという視点が生徒の中に獲得されたのではと感じている。来年度は、本年度の実践を更に発展させ、「情報を鵜呑みにしないためにはどうすべきか」「報道は本当に全て中立なのか、我々は情報とどのように接するべきか」といった、より実践的な問いについて探究する活動を考えていきたい。

### (2) 本年度のNIE活動をはじめる前の状況

本校は、全校生徒333名、14学級（内特別支援学級4）の学校である。NIE活動を始める前は、生徒が新聞を読めるのは、図書室だけであった。本年度NIEの公開授業を行った3年4組（在籍28名）の新聞購読家庭数は12家庭で、学級全生徒の約43%であり、生徒の情報源として多く挙げられたのは、インターネットやSNSであった。本年度の職員の新聞活用の状況としては、国語科職員が収集した新聞記事をスクラップした資料を作成したり、職員間で共有している「研修・研究・ICT教育」のチャットに公開授業で使う新聞記事をアップし、職員にも紹介したりして活用した。

### (3) NIE活動の狙い（育てたい力）

昨今のSNSの普及など時代の変化に伴い、子どもたちに求められる資質・能力も変わってきている。将来の民主的な社会の担い手を育てるために、自分とは異なる多様な考えをもつ人々が社会に存在することを理解させる教育（メディアリテラシー教育）の必要性が高まっている。そのために、生徒に社会について自分ごととして考えさせ、自分の考えを言葉で説明する力を育てることを大切にしていきたい。また、物事を多角的な視点から見つめ、十分に吟味・検討したうえで自分の考えをもつ力を育てていきたい。

#### (4) 公開授業以外のN I Eの取り組みの状況

##### ①新聞に触れる機会を授業でつくる

- ・信濃毎日新聞社の方による出前授業（2時間）（3年）
- ・新聞に親しむ活動（3年）

→『新聞記事から一番長い熟語を探そう』

（熟語をタブレットに入力すると、漢字数が多い順にソートされるシートを使用）

→『新聞から選んでみよう』

（気になる記事を選んで切り抜き

シートに貼り、選んだ理由を記入する）

- ・公開授業前に、別の短い記事で読み比べ→  
発信者の意図や効果を考える→タブレット入力→  
全体共有→各自で情報に接する際の留意事項を考えて入力→全体共有



##### ②新聞に触れる機会を授業以外でつくる（全学年）

- ・3年生が選んだ記事を廊下に貼り出す
- ・9月～送っていただいた新聞8紙を廊下の机に置き、自由に閲覧できるようにする
- ・「日本新聞博物館」に依頼して、同じ日の【全国115紙】を送っていただき、廊下に展示する
- ・国語科で選んだ色々な記事を模造紙に貼って展示する



#### (5) 公開授業などの活動内容

令和7年度 松川町立松川中学校 公開授業

### 国語科 学習指導案

- |   |     |                                 |
|---|-----|---------------------------------|
| 1 | 単元名 | 「新聞記事を比較して読もう」                  |
| 2 | 日時  | 令和7年10月28日（火） 13:30～14:20（第5校時） |
| 3 | 学級  | 3年4組（男子16名 女子12（1）名 計28（1）名     |
| 4 | 助言者 | 三石 啓介 指導主事                      |
| 5 | 授業者 | 金澤 由佳 教諭                        |

## I 単元の目標

- (1) 話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知識及び技能(1)ウ)
- (2) 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思考力, 判断力, 表現力等C(1)イ)

## II 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。	「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。	文章の構成や論理の展開、表現のしかたなどを進んで捉え、学習課題に沿って報道文を比較し、自分の考えをまとめようとしている。

## III 単元の展開 (全7時間)

第一次 (2時間)	<p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①新聞の特徴を知る(1時間)。</li><li>②新聞を読んで気になった記事を選び、選んだ記事について自分の考えや思いを書く(1時間)。</li></ul> <p>【手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①信濃毎日新聞社の方に出前授業をしていただき、第一時は、新聞の構成(見出し、写真、グラフ、表、地図、リード文、本文、5W1H等)について学ぶ。</li><li>②第二時は、気になった記事を選び、選んだ記事について考えや思いを書く活動をするために、最初に「全ての面を開こう」「気になったら○印を付けよう」「記事を一つ選んで、記事の気になった部分に線を引こう」などの約束事を示し、活動に取り組む。</li></ul>
第二次 (1時間)	<p>【学習活動】</p> <p>「みんなの時間」を活用し、以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①新聞から文字数の多い熟語を探し、専用の入力シートに見つけた熟語を入力し、熟語の文字数を競う(0.5時間)。</li><li>②新聞記事から自分の興味・関心のある記事を選び、選んだ理由や感想を記入する(0.5時間)。</li></ul> <p>【手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①専用の入力シートを本校のICT担当教員に作ってもらい、生徒が文字を入力すると、即時的に文字数と入力した生徒の氏名が表示され、文字数の多いものから順に並ぶようにする。それによって、活動にゲーム性をもたせて前向きに学習に取り組めるよう配慮する。</li><li>②以下の選択肢を用意し、生徒が自分の興味・関心に沿って記事を探せるよう配慮する。</li></ul>

- A 好きな文字（字体）を探そう！（新聞で使われている好きな字体＋理由や感想）
- B 食べ物や動物や趣味などに関連する記事（料理レシピなども可）＋理由や感想）
- C 私が選ぶ写真（キャプション付き）1枚（選ぶ＋理由や感想）
- D 気になる見出し（気になった見出しを選ぶ＋理由や感想）
- E 地域的话题を探そう（飯田下伊那関連や長野県の記事を探す＋理由や感想）
- F 10代の投稿欄（気になったものを選ぶ＋理由や感想）
- G 同世代に関する記事を探そう（中高生の記事を選ぶ＋理由や感想）

※どちらの活動も、一人につき一部ずつ新聞を配る。なお、使用した新聞は、NIE 指定校として送ってもらっているものや「日本新聞博物館」から「全国115紙」を取り寄せたものを使い、一人一人違う新聞を手にとれるよう配慮する。

※新聞に親しむ環境作りと来年度に向けての意欲付けのため、学習の成果物は、廊下等に展示し、1・2年生も見られるようにする。

第三次  
（4時間）

【学習活動】

- ①新聞記事 A・B（本時の教材とは別の記事）を読み比べ、「見出し」や「書かれていること」から、気付いたことを挙げ、報道文を読むときに留意することを挙げることで、文章を批判的に読み、情報の信頼性や客観性を吟味・検討することの大切さに気付く。
- ②記事 A・B（本時で扱う教材）を読み比べ、それぞれの記事の見出しと共通して書かれている記述を整理する。
- ③記事 A・B を読み比べ、両者の「違い」に着目し、「①見出し」、「②見出し＋文末」の観点に基づき、自分の考えをまとめ、同じ話題を報じた報道文であっても、取り上げる事実の選び方、切り取り方によって、記事から受ける印象に違いがあることに気付く、発信者の意図や目的を推測する。
- ④「③見出し＋内容全体」、「④①～③を比べたことで見えてくる発信者の意図」、「⑤情報に接する際に留意したいこと」の観点に基づき、自分の考えをまとめ、クラス全体でお互いの考えを共有することで、文章を批判的に読み、情報の信頼性や客観性を吟味・検討することの大切さについて理解を深める。

【手だて】

- ①本時で扱う新聞記事とは別の記事 A・B を用意し、まず一度やってみることで、学習活動への見通しをもてるようにする。
- ②新聞記事を載せたワークシートを作成し、それぞれの記事の見出しを確かめる。また、両者に共通して書かれている記述に色を付け、確かめる。
- ③自分の考えをまとめる活動では、タブレットを用いてスプレッドシートに入力する。スプレッドシートに考えを入力することで、随時、級友の考えを参照しながら思考を深められるようにする。
- ④前時でまとめたスプレッドシートをもとに、「発信者の意図」や「情報に接する際に留意したいこと」について自分の考えをもち、クラス全体で共有する。

#### IV 本時案

1 単元名：「新聞記事を比較して読もう」

2 本時の位置：全7時間中7時間目

前時：新聞記事A・Bを読み、「①見出し」、「②見出し+文末」の観点に基づき、自分の考えをまとめる。

3 本時の主眼：新聞記事A・Bを「①見出し」、「②見出し+文末」の観点に基づき、両者の違いについて自分の考えをまとめた生徒たちが、新聞記事を比較して読む場面で、「③見出し+内容全体」、「④①～③を比べたことで見えてくる発信者の意図」、「⑤情報に接する際に留意したいこと」という観点に沿って自分の考えをまとめる活動を通して、文章を批判的に読み、情報の信頼性や客観性を吟味・検討することの大切さについて理解を深めることができる。

4 指導上の留意点：複線型で生徒が学習を進められるように、導入時に本時の流れと学習方法を確認する。

5 本時の展開

	学習活動	予想される生徒の反応	指導・支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>	時間
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習を振り返る。</li> <li>本時の課題と流れを把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前は、見出しと文末に着目して違いを探したな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時のスプレッドシートをテレビ画面に映し、級友の考えを共有するとともに、学習内容を振り返る。</li> </ul>	10
	<b>【学習課題】</b> 記事 A・B の「違い」に着目して発信者の意図を推測し、情報に接する際に留意したいことを考えよう。			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>今日は、記事A・Bを書いた発信者の意図を考えるんだな。</li> <li>情報に接する際に留意したいことには、どんなものがあるだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の課題と流れを示す。</li> <li>本時では、「③見出し+内容全体」、「④①～③を比べたことで見えてくる発信者の意図」、「⑤情報に接する際に留意したいこと」という観点に沿って自分の考えをまとめることを伝える。</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>記事A・Bを読み比べ、自分の考えをスプレッドシートに入力する。</li> <li>①一人になって考えを深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの記事で「違う」記述の部分に色が付いているんだな。</li> <li>なぜ、記事によって取り上げ方が違うのかな。</li> <li>他の人はどんな違いに注目したのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スプレッドシートに「③見出し+内容全体」、「④①～③を比べたことで見えてくる発信者の意図」、「⑤情報に接する際に留意したいこと」について自分の考えを入力する。</li> </ul>	32

	<p>②級友と関わって考えを深める</p> <p>③スプレッドシートの級友の考えを参照して考えを深める</p> <p>④教師に質問する</p> <p>⑤わからない語句や事柄が出てきたら、随時、タブレットで調べるなど、その都度、自分に合った方法を選択しながら考えを深める。</p> <p>・数名、自分の考えを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記事 A は、「新しい時代を刻んだ」や、「もう「やり直し」許されぬ」などのセリフを用いることで、高市さんの決意や努力、高市さんに対する期待感を表現しており、どちらかというが高市さんに好意的な感じがするな。</li> <li>・記事 B は、高市さんの「ワークライフバランスという言葉捨てます」という発言を石破さんが「たしなめ」た、とあることから、あまり高市さんに好意的でない感じがするな。</li> <li>・一部の記事にしか書かれていないことを簡単に鵜呑みにしてはいけないんだな。</li> <li>・同じ出来事でも記者の主観で書かれている部分があるので、いくつかを読み比べたほうが、中立の立場になれるんだな。</li> <li>・まずは情報を鵜呑みにせず、複数の情報を読み比べて自分なりの考えをもつことが大切なんだな。</li> </ul>	<p>・机間指導を行い、着眼点がわからない生徒に対しては、見出しや文末、言葉のもつ意味等を捉えさせ、そこから見えてくる違いについて考えるよう指導したり、具体性に乏しい、理由・根拠がはっきりしていない生徒に対しては、足りない部分を考えるよう指導する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができたか。(思考力, 判断力, 表現力等 C(1)イ))</p> </div>	3
まとめ	<p>・本時の活動のまとめと振り返りを行う。</p>		<p>・本時の学習の振り返りをタブレットに入力するよう伝える。</p>	5

### (6) 1年間取り組んだ成果と課題

来年度は、本年度の実践を更に発展させ、「情報の信頼性」の原則を学んだ生徒たちが、「情報を鵜呑みにしないためにはどうすべきか」、「報道は本当に全て中立なのか、我々はどう読むべきか」といったより実践的な問いについて探究する活動を仕組んでいきたい。合わせて、生徒の学習を効果的にサポートする ICT 機器の活用の仕方や「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」、「学習の促進者・伴走者としての教師のあり方」などについて考える複線型授業についても更に研究と実践を重ねていきたい。